



CHAPTER 2

このリリースの新機能

- 「LCS/OCS によるパーティション化されたドメイン内フェデレーション」 (P.1)
- 「クロス クラスタ ログイン」 (P.1)
- 「アップグレード API」 (P.2)

LCS/OCS によるパーティション化されたドメイン内フェデレーション

パーティション化されたドメイン内フェデレーションでは、同一企業ドメイン内の Cisco Unified Presence クライアントユーザと Microsoft Office Communicator ユーザが、プレゼンス アベイラビリティと Instant Messaging (IM; インスタント メッセージング) を交換できます。

この統合では、Cisco Unified Presence で設定され、Cisco Unified Presence がサポートするクライアントをデスクトップクライアントとして使用するか、OCS または LCS で有効化され、Microsoft Office Communicator をデスクトップクライアントとして使用する、企業ドメイン内のユーザがサポートされます。パーティション化されたドメイン内フェデレーションの詳細については、『*Integration Guide for Configuring Partitioned Intradomain Federation for Cisco Unified Presence Release 8.6 and Microsoft LCS/OCS*』を参照してください。

クロス クラスタ ログイン

Cisco Unified Presence は、Cisco Unified Personal Communicator クライアントアプリケーションを、ユーザが割り当てられた Cisco Unified Presence ノード (ホーム ノード) にリダイレクトする機能をサポートしています。このリダイレクト機能は、クラスタ内およびクラスタ間導入でサポートされます。ユーザがホーム ノードへのサインインに成功すると、Cisco Unified Personal Communicator がサーバ名をキャッシュします。その結果、ユーザが再割り当てされない限り、リダイレクトは 1 回のみ行われます。詳細については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

アップグレード API

アップグレード API では、既存のアップグレード フレームワークと統合された Web ベースのインターフェイスが提供されます。この機能を使用すると、大規模な Cisco Unified Presence 導入のシステムアップグレードが容易になり、単一の管理クライアントからアップグレードの開始と監視を行えます。アップグレード API を使用するアプリケーションを適切に開発するには、アップグレードの動作方法とアプリケーションをアップグレード プロセスに適合させる方法を理解する必要があります。アップグレード API の詳細については、Cisco Developer Network にある Cisco Unified Presence API のマニュアルを参照してください。